

防災力向上のまちづくり

木造密集市街地の防災力向上まちづくりワークショップでファシリテーターを務めさせていただいています。

そこに住む市民も行政も大震災のときの被害を想定して、対策を打ちたいと思っています。ファシリテーションがお役にたつことがあるのでしょうか。

☆ファシリテーションで防災？

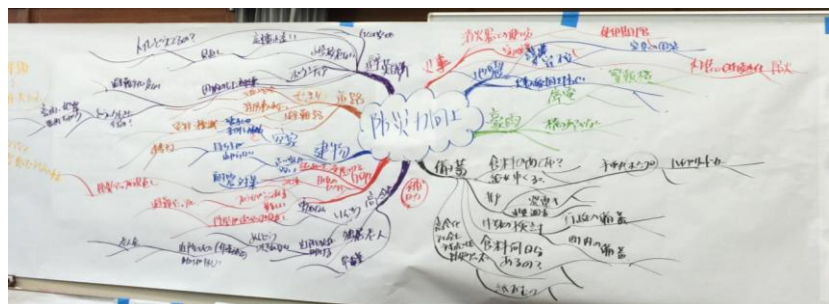
阪神淡路大震災のとき、災害からの復興にはファシリテーターがたくさん必要になる！との考えから私の所属するNPO、日本ファシリテーション協会（FAJ）を立ち上げたとの話を聞いたことがあります。

災害の起こる前からも、人と人をつなぐためにファシリテーションのスキルが必要ではあるのですが、いざ、起きた時には復興に向けてファシリテーションは大切なツールになっていることが東日本大震災でも広く認知されました。

☆事前の対策は

「災害からのレジリエンス」を研究しているダニエル・アルドリッヒ教授は、災害からの復興の早さは、被害の大きさに比例するのではなく、普段からのコミュニケーションの濃密度によることを検証されました。

もちろん、ハード的な整備も大切ですが、なによりもコミュニティ内でのコミュニケーション、人と人とのつながりを強くしていくことが重要だとおっしゃっています。復興に向けた一番の事前対策は地域のつながりを太いものにしておくことかもしれません。



☆つなぐ、共有することから

ハードの図面は引けません、ネットワークをつなぐ紐帯を結び、太くしていくことを目指す！と、ソーシャル・アクティの立ち位置を確認し、ぶれない様に進めていこうと考えています。

参加された方々が、ご自分の町内はもちろんのことですが、隣の町内のことも意識するようになってほしいとワークショップをデザインしています。全体での共有を工夫することから始めています。

☆後々、少しでも「そういえば、隣の町内は…」と思っていただけるとうれしいです。